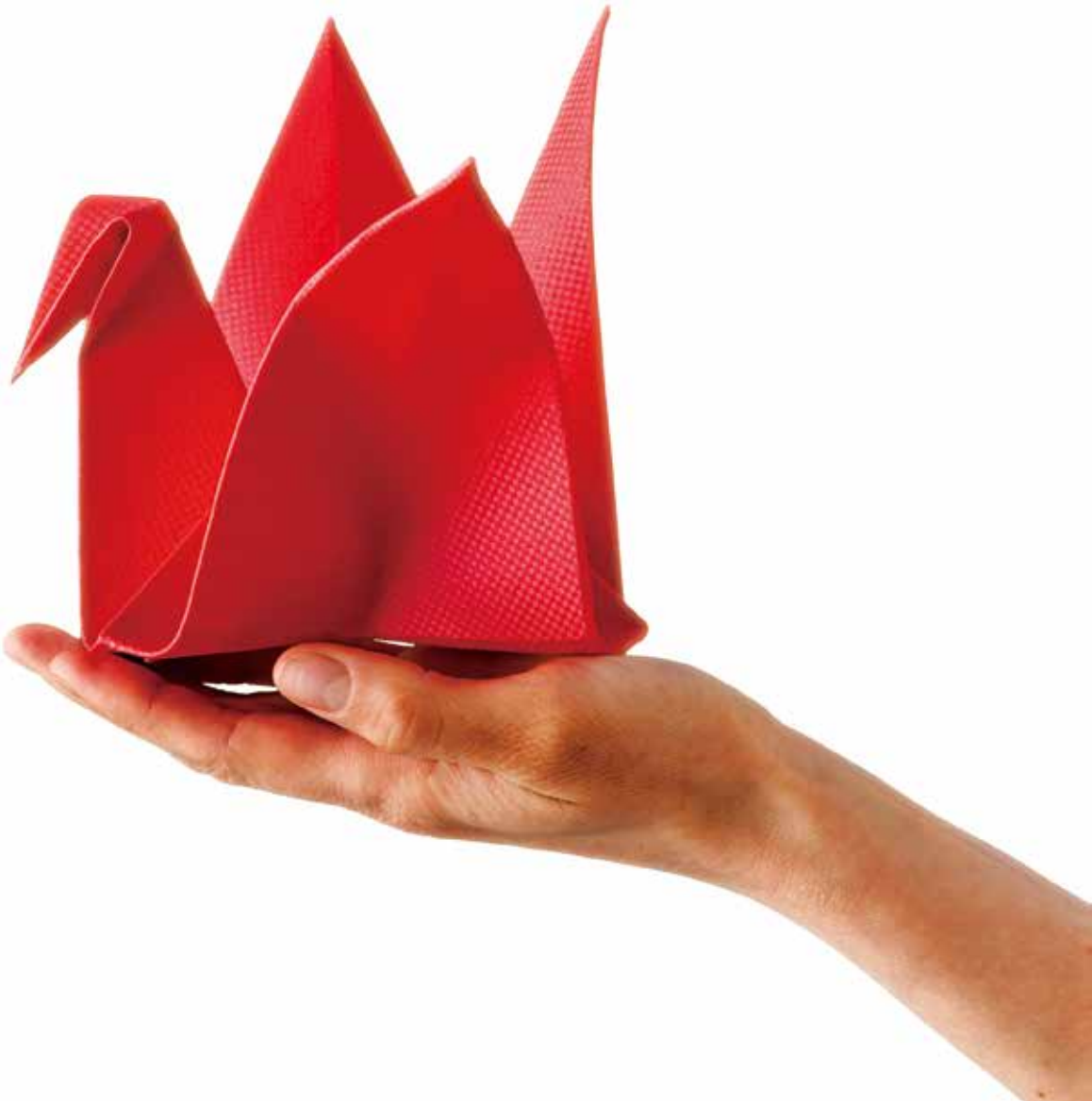
ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社

Touch the Future



私たちのビジョン

VISION

目に美しく、触り心地に優れ、使って便利な製品で、お客様の期待に応える

持続可能な社会の発展のために

私たちは、常に前向きな変化を志向し、より良い未来のためにサステナビリティへの取り組みを積極的に推進します。その取り組みを通して、私たちの事業が及ぼす環境・社会への影響に対する理解を深め、私たちを取り巻く社会の持続的な発展の実現に貢献します。

CONTENTS

02 TOP MESSAGE
06 事業概況
10 特集：快適さと機能性を届ける
13 OUR SUSTAINABILITY
14 PRODUCT
14 お客様のニーズに応える取り組み
16 品質管理への取り組み
18 環境に優しい製品への取り組み
20 PLANET
20 環境保全への取り組み
24 PEOPLE
24 従業員への取り組み
26 地域社会貢献への取り組み
28 コーポレート・ガバナンス

編集方針

本レポートは、ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社及び日本子会社である第一化成株式会社（第一化成）、米国子会社であるUltrafabrics Inc.（Ultrafabrics）のサステナビリティに対する考え方を示し、またそれに基づく具体的な活動内容を報告するものです。

2017年度版では、財務概況を含む事業報告に加え、わが社の事業活動をステークホルダーの皆様にご紹介することを目的に、わが社の製品の特長やその用途を特集記事としてまとめました。サステナビリティ活動の詳細については、当社のサステナビリティフレームワークである「製品（Product）」「地球環境（Planet）」「人（People）」に分類して報告しています。

報告対象期間

本レポートでは、原則として2017年4月1日～2017年12月31日の活動を対象としていますが、一部の活動内容については対象期間外のものも含みます。

報告対象範囲

本レポートは、ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社及び国内外の子会社を含めたグループの取り組みを報告しています。

TOP MESSAGE

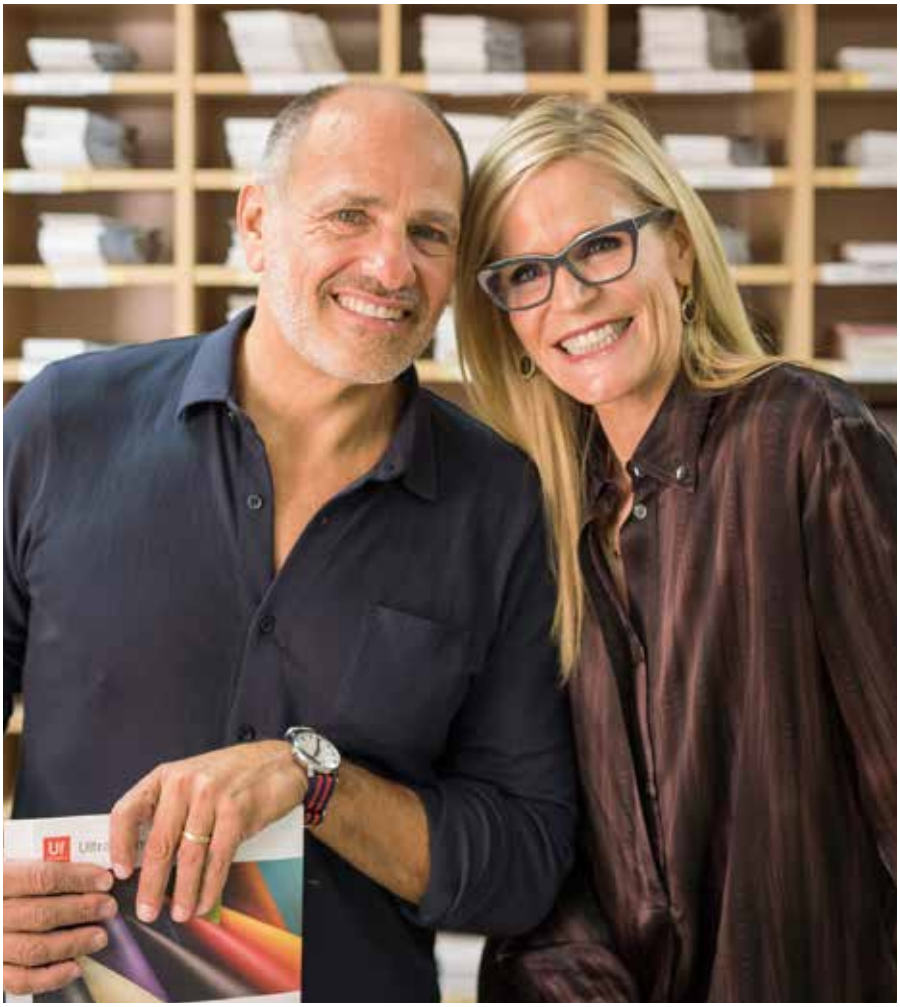
未来を見据えた前向きな変化を志向し、グループ一体となって社会の課題に向き合う

第一化成とUltrafabricsは、独占販売・独占供給契約に基づき米州・欧州を中心に日本国外における事業を安定的に成長させてきましたが、両社は2017年1月に、今後の両社の継続的な成長を確実なものにするために事業統合することで合意しました。2017年10月の持株会社化により、事業拡大を支えてきた日本の製造機能と海外のマーケティング機能の対等なパートナーシップを維持しつつ、グループ一体経営の中でお客様の声が、より迅速に製造開発の現場に届き活かされる体制づくりを推進しています。新体制の下で、製品開発機能の強化による製品利用範囲の拡大、製品のグローバル展開、グローバルブランドの確立を推進し、更なる事業成長をグループ一丸となって目指します。

経営体制においては、第一化成、Ultrafabricsの取締役に加え、3名を社外より取締役として迎えることで、コーポレート・ガバナンスを更に充実させ、透明性及び機動性の高い経営の実現を目指します。

2017年度から2019年度の3カ年を対象期間とする中期経営計画では、自動車向け製品及び航空機向け製品を成長分野の柱と位置付けています。これらの分野のお客様のほとんどがグローバルに事業を展開しており、高い品質だけではなく、グローバル供給に対応する体制、量とその安定性などが求められることから、お客様の要求に確実に応えるため、国内生産設備の拡充を2018年夏までに完了する予定です。

2018年度はウルトラファブリックスグループにとって、グループとしてだけでなく私たちの持続可能な社会に向けた取り組みにとっても新たな出発の年となります。私たちのサステナビリティのフレームワークである「Product」、「Planet」、「People」、それぞれの領域で社会環境の課題に向き合うことで、事業成長と環境保全・地域社会発展の並立を目指します。また、より革新的でサステナブルな製品を皆様にお届けすることで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



取締役
クレイ・ローゼンバーグ
Ultrafabrics Inc.
取締役CEO

取締役
ダニエル・ベッカープリマック
Ultrafabrics Inc.
取締役President

Ultrafabricsは、1989年から第一化成と販売取引のあったSprings Industries Inc.が1999年に事業改編をする際、同社から合成皮革部門を譲り受け設立されました。Ultrafabricsと第一化成の取引はその後も拡大を続け、今日までにオフィス用家具から車輌シート、航空機内装材に至るまで多岐にわたる市場を両社協力の下で開拓し成長を続けています。過去30年にわたる両社の実績と成功は、緊密な協力関係、互いの役割と能力への敬意、互いへの信頼に支えられてきました。両社は、世界中のお客様のニーズに応えるべく、製品の開発、製造、ブランドイメージの形成、販売活動などさまざまな分野で協力関係を深めてまいりましたが、2017年の事業統合によりこれまでの協力関係を更に強化することで、グループ一体となって当社製品の世界的なプレゼンスの拡大を目指します。

私たちが製品を提供する多岐にわたる市場で将来にわたりその需要に応えていくには、設備投資を通じた生産能力の向上、お客様のニーズに応える製品開発プロセスの整備、そして環境及び人権に配慮した成長への取り組みが求められます。私たちは両社の事業統合を更に深化させ、共通の目標を持った1つの企業グループとして環境及び地域社会の課題や企業市民としての責務に積極的に取り組み、従業員及びステークホルダーの皆様とともに成長してまいります。

取締役
中川 豊彦
第一化成株式会社
代表取締役社長

取締役
田中 勉
第一化成株式会社
代表取締役副社長兼製造本部長

第一化成は、1966年の創業以来、樹脂や基布などの主要原料供給メーカーの皆様との緊密な連携・協力の下、合成皮革専業メーカーとして合成皮革の開発・製造に取り組んできました。「柔らかな風合いとしなやかな触感」というわが社の製品特性は、衣料用合成皮革の開発・製造を通じて培われ、長年にわたり製造現場に蓄積されてきた技術とノウハウにより実現されています。第一化成では、こうした技術やノウハウを継承しながらも、常により効率的な生産プロセスを目指すことで、事業が環境に与える負荷を減らす取り組みを推進しています。

製品開発の分野では、1990年代以降、衣料用から産業資材用素材に開発の主軸を移し、Ultrafabricsの協力の下、アメリカ市場を中心としたお客様のニーズを開拓・把握し、お客様の厳しい要求に対応した製品開発を進めた結果、第一化成の製品はオフィス用家具から車輌シート、航空機内装材に至るまで幅広いシーンで利用されるようになりました。今般のUltrafabricsとの事業統合により、お客様のニーズにこれまで以上に迅速に対応できる体制構築を進め、更なる製品の拡充に努めてまいります。

またUltrafabricsと連携して世界的な環境に関する規制強化の動向把握に努め、VOC対応合成皮革、無溶剤・水系樹脂使用製品の開発により更に環境に優しい合成皮革の研究に取り組むなど、より安全で環境に優しい製品開発を目指します。

事業概況

当期の業績

2017年度（2017年4月1日から2017年12月31日まで）における国内経済は、旺盛な外需及び個人消費と設備投資を中心とした内需に支えられ、年間を通して堅調に推移しました。また、世界経済においても、欧州、米国をはじめとして安定した成長が続いています。なお、当社製品の最終消費地は米国を中心にほとんどが海外であり、日本よりも世界経済の動向に販売が影響を受けやすい傾向があります。

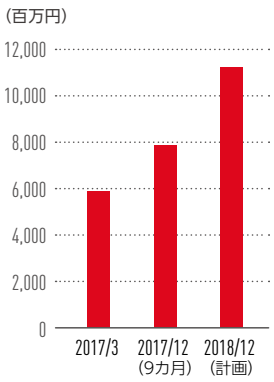
このような経済状況のもとで当社グループは、日本の第一化成と米国のUltrafabricsの事業統合を2017年10月1日付の持株会社体制への移行をもって完了し、新しい体制による更なる事業成長への取り組みを開始しました。

グループ全体のビジネスの増加に加え、Ultrafabricsの売上が連結決算に反映されることにより、売上収益は期初の想定通りの水準に大幅に増加しました。しかしながら、Ultrafabricsの資産・負債を公正価値にて連結財務諸表に取り込む（PPA:Purchase Price Allocation）に際して顧客関連資産（Customer Relationship）など償却対象となる資産が計上され償却費が増加したこと、グループ再編にあたり持株会社の設立や内部統制の整備など将来の事業成長に向けた組織体制強化に係るコストが想定以上に掛かったこと、株式報酬費用を計上したことなどにより営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益は当初予定を大幅に下回りました。

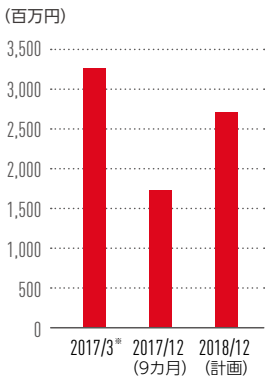
この結果、2017年12月期の売上収益は78億48百万円、営業利益は5億72百万円、税引前当期利益は2億4百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益は71百万円となりました。

用途別の売上収益の概況は、7ページ下段の通りになります。用途別の売上収益は、用途ごとに多少のばらつきはあるものの、概ね計画通りに推移しました。なお、2017年度より、売上収益はUltrafabrics及び従来のUltrafabrics以外への売上収益が合計されることに伴い、従来の家具・車輌用、手袋用、その他用、溶剤（DMF）として表示していた用途別情報を家具用、自動車用、航空機用、その他に変更しています。

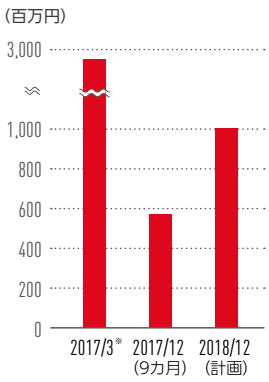
売上収益



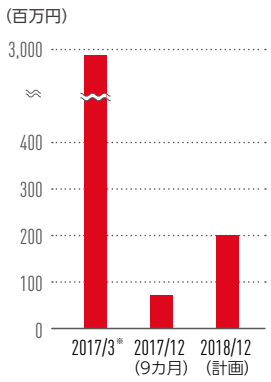
EBITDA



営業利益



親会社の所有者に帰属する当期利益



※2017年3月期のEBITDA、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益には、同期に実施した企業結合の結果発生した段階取得に係る差益25億93百万円が含まれております。

連結財務諸表

連結財政状態計算書（要約）

（単位：百万円）

	前連結会計年度（2017年3月31日）	当連結会計年度（2017年12月31日）
資産		
流動資産	5,313	5,243
非流動資産	20,019	21,674
有形固定資産	2,984	4,858
のれん	8,030	8,091
無形資産	8,737	8,336
その他の非流動資産	268	389
資産合計	25,332	26,917
負債		
流動負債	14,956	5,226
非流動負債	1,693	12,491
負債合計	16,650	17,716
資本		
資本金	1,387	1,387
資本剰余金	1,328	1,845
利益剰余金	6,598	6,524
自己株式	△611	△469
その他の資本の構成要素	△20	△87
資本合計	8,682	9,201
負債資本合計	25,332	26,917

※当社グループは、2017年12月31日に終了する連結会計年度より国際会計基準（以下「IFRS」）を任意適用しております。また、前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	前連結会計年度（2016年4月 1日から2017年3月31日まで）	当連結会計年度（2017年 4月 1日から2017年12月31日まで）
売上収益	5,874	7,848
売上原価	△4,355	△3,907
売上総利益	1,519	3,941
販売費及び一般管理費	△1,149	△3,353
その他の収益・費用	2,576	△16
営業利益	2,947	572
税引前当期利益	3,054	204
親会社の所有者に帰属する当期利益	2,887	71

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

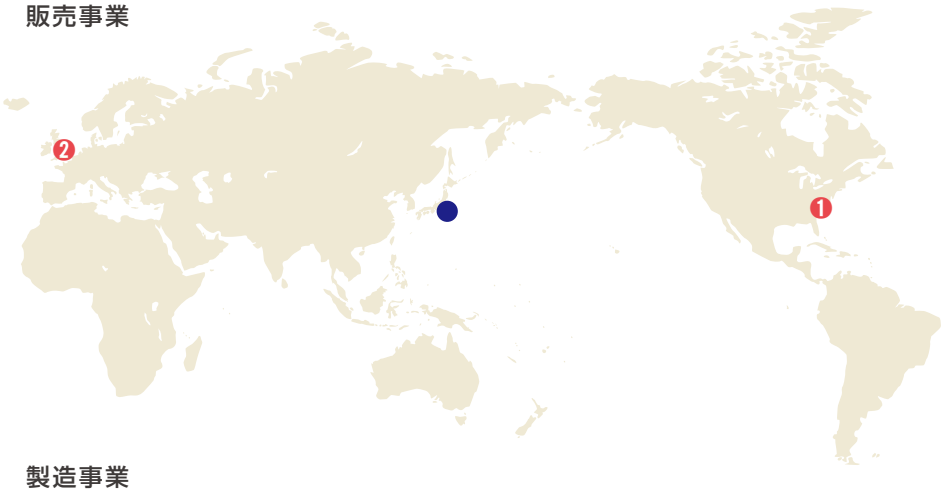
	前連結会計年度（2016年4月 1日から2017年3月31日まで）	当連結会計年度（2017年 4月 1日から2017年12月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	831	1,231
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,337	△2,851
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,614	1,045
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△167
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,117	△742
現金及び現金同等物の期首残高	1,305	2,422
現金及び現金同等物の期末残高	2,422	1,680

用途別売上収益の概況

用　途	売上収益構成比率	概　況
家具用	30.7%	柔らかな風合いに加え、通気性等の高い機能性とデザイン性が評価され、北米を中心に椅子などハイエンドのオフィス用家具に以前から採用されてきました。当期においても、堅調な経済動向に加えて、より快適な環境へのニーズの高まりから、新規に当社製品を採用する家具メーカーが増加しております。
自動車用	25.0%	ギアシフトブーツなど以前から採用されていた内装材用途に加え、近年の技術開発により高い耐摩耗性や耐久性が求められるシートにも採用されております。特に欧米では、動物由来の素材を避ける消費者のニーズに応えるアニマルフリーでラグジュアリーな内装材として、当社製品の採用を検討するメーカーが増えております。
航空機用	8.0%	プライベートジェット（ビジネスジェット）の内装を中心に事業を展開してきましたが、近年大型の民間航空機の内装にも採用され、着実に事業を拡大しております。二酸化炭素排出量を更に削減したいという航空会社のニーズから、本革や塩化ビニールと比べて大幅に軽量な合成皮革の採用意欲は高まる傾向にあります。
その他	36.1%	従来第一化成が直接販売を行っていた手袋・衣料用に加え、UltrafabricsのRV、トラック、ボート、医療用などのその他用途が含まれます。これらの用途向け売上は、短期間に大幅に増加することはないものの安定的に成長しており、当期も従来通りの動きとなっております。

主要拠点

販売事業



Ultrafabrics Inc.

Ultrafabrics Europe Ltd.

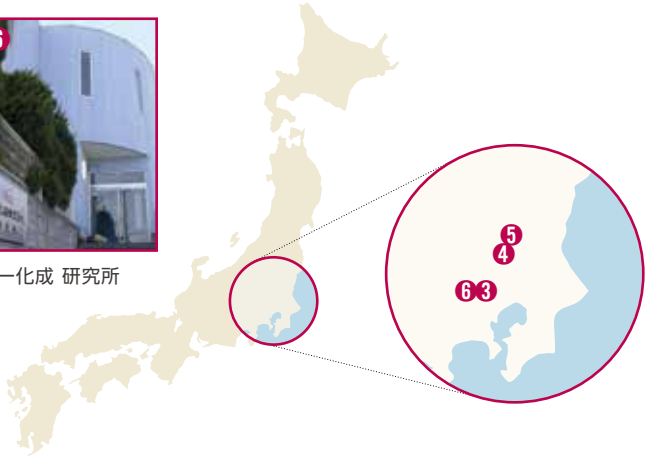
製造事業

ウルトラファブリックス・
ホールディングス本社
第一化成本社

第一化成 埼玉事業所

第一化成 群馬工場

第一化成 研究所



沿革

- 1966年 合成皮革の製造販売を目的として第一化成株式会社を設立
- 1979年 埼玉事業所を新設
- 2004年 ジャスダック証券取引所に上場
- 2016年 群馬工場を新設
- 2017年2月 Ultrafabrics Inc.を完全子会社化
- 2017年10月 第一化成がウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社に商号変更し純粋持株会社化
- 1999年 Ultrafabrics Inc.を設立し、第一化成と提携
- 2007年 Ultrafabrics Europeを新設
- 2008年 タリータウンに本社を移し、エルムズフォードに倉庫を新設

会社概要

会　社　名	ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社 (英訳名)Ultrafabrics Holdings Co., Ltd.(2017年10月1日より) (旧商号：第一化成株式会社　(英訳名) Daiichi Kasei Co., Ltd.)
設立年月日	1966(昭和41)年1月12日
上　場　日	2003(平成15)年2月27日
取　引　所	東京証券取引所　ジャスダック市場　スタンダード　(証券コード4235)
資　本　金	13億8675万円(2017年12月31日現在)
所　在　地	本社　東京都八王子市明神町3-20-6 八王子ファーストスクエア6F
子　会　社	第一化成株式会社、Ultrafabrics Inc.(2017年12月31日現在)
決　算　期	12月(2017年6月開催の定時株主総会決議により、3月から12月に変更)
グループ主要取引銀行	みずほ銀行八王子支店、りそな銀行八王子支店、東京都民銀行八王子中央支店

グループ事業概要

湿式合成皮革の製造及び販売

株式の情報

株式メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで 第53期事業年度は、2017年4月1日から2017年12月31日までとします。
定時株主総会	毎年3月
剰余金受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年6月30日
単元株式数	100株(2015年7月1日より)
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社

株式の状況 (2017年12月31日現在)

発行可能株式総数	27,200,000株	
発行済株式総数	普通株式	6,800,000株
	A種優先株式※	1,850,000株
株主総数(普通株)	1,416名	

※A種優先株式については、有価証券報告書をご参照下さい。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店(住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)		みずほ証券本店及び全国各支店、プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行※及びみずほ銀行の本店及び全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) ※トラストラウンジではお取扱できませんので、ご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
公告掲載新聞	日本経済新聞	

特集

匠の技術

快適さと機能性を届ける

人は、感覚器を通じて環境からのさまざまな刺激を知覚することで、心地よさや癒やしなどを感じています。卓越したデザイン性と優れた機能を併せ持つ当社の湿式ポリウレタンレザーには、ものづくり日本を象徴する「匠の技」が注ぎ込まれています。基布や樹脂など各種素材に関する継続的な研究開発と、顧客ニーズを的確にとらえる柔軟な対応力が、ジャパンブランドを名乗るにふさわしい至高の一品を生み出しています。

他に類のない合成皮革

私たちの製品は「柔らかな風合いとしなやかな触感」、「多彩な色や模様」という利用者の主観的な感性に訴える性質を基本特性としています。更にお客様それぞれの特性や用途に合わせ、通気性や防汚性などさまざまな機能を製品に追加することで幅広い用途に用いることを可能にし、利用者一人一人の生活にプラスに寄与できる快適で高機能な製品をお届けします。

表皮層

通気性、防汚性、抗菌性、耐光性など用途に合わせた機能を実現

フィルム層

耐加水分解性と耐久性に優れたポリウレタン樹脂を圧着、優れたデザイン性と色合いを実現

多孔質層

湿式凝固を活用して溶剤を抽出することにより、乾式合成皮革にはない多孔質層が基布上に形成され、天然皮革に近い風合い、ボリュームを実現

基布

レーヨン繊維を使用したベースは優れた耐久性、伸縮性、寸法安定性を実現

ヘルスケア

安全な原材料の使用、優れた防汚・
抗菌性により医療現場を安全かつ快適に

HEALTHCARE

RESIDENTIAL

オフィス

高い通気性や吸音性による
オフィスの快適さと
従業員の生産性向上に

住宅

他に類のない柔らかさと
多様なデザインでさまざまな
ライフスタイルの実現に

AVIATION

航空機

本革やPVCを上回る軽さ、
ファブリックよりも長い寿命により
航空機をよりサステナブルに

船舶

優れた耐加水分解性と
耐光性を備えることで
過酷な環境下での使用を可能に

MARINE

Ultrafabrics Showroom

ロンドンショールーム

2018年5月、Ultrafabricsは新しい試みとしてロンドンのクラーケンウェルにショールームを開設します。当ショールームはUltrafabricsの欧州拠点になるとともに、デザイナーやお客様をはじめ、足を運んでいただいた皆様の創作活動をイノベーティブ、そして魅力的な製品で刺激します。

クラーケンウェルはロンドンの中心部に位置し、世界中のクリエイティブなデザイナーが集まる街です。

Ultrafabricsのショールームは、コペンハーゲンと東京を拠点に多岐にわたるインテリア建築を手掛け、数々の賞を受賞しているOEO STUDIO（OEO社）が設計しています。OEO社の匠の技、品質、様式、機能や細部にわたる美しさなど日本と西洋の融合に根差したデザインや、高い品質と長持ちする素材を活用する設計は、当社のサステナビリティへの取り組みにも通じています。

当社は新しいショールームを通じて、英国、欧州をはじめとする世界中の建築家やデザイナーの皆様に、これまでにない価値を提供していきます。

持続可能な社会の発展に向けた私たちの取り組み

2018年度はウルトラファブリックスグループはもちろん、グループ全体の持続可能な社会に向けた取り組みにとって、新たな出発の年となります。私たちは未来に向けた前向きな変化を常に志向し、持続可能な社会の実現に貢献するために、製品（Product）、地球環境（Planet）、人（People）を活動のフレームワークとして掲げています。

Our Sustainability

- 高い機能性を備え、目に美しく、触り心地に優れ、人間の感性に訴える製品を信頼される品質で提供します
- 製品そのものがよりサステナブルになることを目指した研究開発に取り組みます

- 原材料の調達、製造工程、物流など製品のライフサイクルを通じて生じる環境への負荷を管理し、事業と環境保全の両立に取り組みます

- 多様で開かれた環境の下、グローバルな人材育成と安全な職場づくりに取り組みます
- 地域とのつながりを大切にし、福祉事業や地域の人材育成など社会のニーズに応えます

PRODUCT

お客様のニーズに応える取り組み

製品特性を更に追求し、お客様の満足度向上につなげていきます

私たちは、柔らかな風合いやしなやかな触感、多彩な色やデザインにより利用者の主観的な感性に訴える製品を作ることで、利用シーンに合わせた快適な空間づくりを目指しています。更に、お客様の特性やニーズに合わせ、通気性や防汚性などさまざまな機能を開発することにより、当社の製品はアパレル・家具から自動車・航空機の内装材に至るまで、幅広い分野で使われるようになりました。私たちは、今後も幅広い分野で、利用者一人一人の生活に更に寄与できることを目指した製品開発に取り組みます。

利用者のニーズに応える取り組み

私たちの製品は、風合いや触感、色やデザイン、無臭性など主観的な感性に訴える特性により利用者の快適さを追求しています。何を最も良いと感じるかは人によって異なることから、製品開発においては、当社グループとお客様のデザイナーや調達部門が初期段階から緊密に連携します。このような主観的感性に訴える品質は、最新の機械の活用だけではなく、高度な技術・デザイン等専門知識及び経験をもった専門家が目で見て、手で触り確かめるプロセスを繰り返すことにより実現されており、当社では技術の伝承による専門的人材の育成にも力を入れています。

製品開発に関するミーティング

幅広い用途への応用を可能にする機能性の追求

ハイエンドのレザーに求められる機能やデザインは、その用途によって異なります。特に当社のお客様はさまざまな機能と最先端のデザインを求めます。第一化成はUltrafabricsとの協力関係の下、幅広い用途に対応するため耐加水分解性、抗菌性、通気性、防汚性、耐光性、難燃性などさまざまな機能を開発してきました。今回の経営統合により、お客様のニーズを直接的に製品開発へ反映し、量産するまでの展開がより迅速に行える体制となりました。これまでの主要販売先である家具分野に加え、品質に対する要求水準が更に高い自動車、航空機等の分野における製品用途の拡大に努めてまいります。

航空機での当社製品の使用例

Mokume

当社の製品は、柔らかな触感と通気性、さまざまなライフスタイルに応える多様なデザインが評価され、長い間住宅やオフィスなどで使われてきました。2017年1月には自然に流れるような美しいシボ*のデザインと高い機能性を兼ね備えた製品を発売し、シボのデザインが成熟木の幹の垂直木目に似ていることから、Mokumeと名づけられました。Mokumeには以前からの機能に加え、独自の細胞構造による吸音性が備わり、今後さまざまなシーンで利用者の快適さに寄与していくものと期待されています。

*「シボ」(絞)とは転写や型押しなどにより合成皮革の表面に形成された微細な凹凸のことで、色とともにデザインを決める重要な要素。

Mokumeを使用した椅子

PRODUCT

品質管理への取り組み

品質はブランド向上の絶対条件、品質の維持・向上に努めます

私たちは日本ならではの技術と日本メーカーからの原材料を駆使して高い品質の製品を日本で作り、世界中のお客様のニーズに応えていくことで成長を遂げてきました。衣料用合成皮革の開発から始まった当社の製品は、家具や医療設備だけではなく商業用航空機の内装材や自動車のシート用レザーにも採用されるなど用途が確実に広がってきており、安定的な供給と併せて品質管理が更に重要な課題になると考えています。持株会社体制の下、製造を担う日本の第一化成と販売を担う米国のUltrafabricsが同等かつ共同で品質に責任を持つことで、工場における人の目と先端技術による全量検査に加え、お客様の声がきちんと反映される品質管理の仕組みづくりに取り組んでいます。

品質向上への取り組み

当社の製造子会社である第一化成では、企業理念を基に品質方針を制定し、品質の向上に力を入れています。1999年には、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を本社、埼玉事業所、研究所で取得し、品質保証部を中心に同規格の運用を通じて継続的な品質改善による顧客満足度の向上に努めています。また、当社は自動車向け合成皮革の生産もしていることから、自動車メーカーを中心とするグローバルなサプライチェーンへの参画に向け自動車業界向けの品質マネジメントシステム規格であるIATF16949取得に向けた準備を進めています。

ISO9001登録証

日本と米国の連携

当社グループは2017年10月より持株会社体制への移行に伴い、持株会社の100%子会社であり製造及び基礎研究を担う日本の第一化成と販売及びブランドマネージメントを担う米国のUltrafabricsが、共同で品質管理に取り組む体制となりました。これまで当社では、主要な原材料である基布や樹脂などの質的・量的な安定確保のための国内取引先との連携、及び国内製造工場における品質マネジメントシステムの運用による製品の品質向上の活動を主に第一化成が担ってきました。新体制の下では、Ultrafabricsが受けたお客様のご要望や苦情、その他品質に関するフィードバックが確実に第一化成の開発や製造の現場に届き活かされる仕組みをつくることで、更なる顧客満足の実現に努めてまいります。

お客様の声を製品に活かすスキーム

世界中のお客様の声を
Ultrafabricsが吸い上げる

↓

その情報を第一化成に
確実にフィードバックする

↓

その情報を共有し、新たな製品開発や
製造プロセスの改善につなげる

人の目と機械による品質管理

私たちは、通気性や防汚性など製品の機能性だけでなく、風合い・触感・色・模様といった利用者の主観的な感性に訴える製品の特性が当社製品の大事な品質であると認識しています。幅や厚み、製品についた汚れの有無等はセンサーなどの検査機器により探知することが可能ですが、主観に訴える特性は人の目で見たり、手で触ったりすることで初めて確認できるものです。全ての工程で異常が無いかを人の目と手を通じて確認するとともに、最終検査は全ての製品を技量試験を通過した検査員が行っています。更にサンプルや初回出荷の量産品は、経営層も参加する品質会議で品質のチェックを行った上で出荷しています。

検査員による製品検査

人に優しく、環境にも優しい製品開発を推進していきます

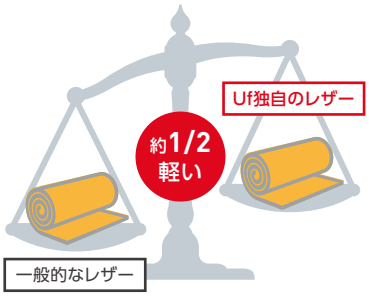
私たちは製品そのものがより環境と人に優しく、サステナブルになることを目指した製品開発への取り組みを進めています。当社の製品は、アニマルフリーでラグジュアリーなレザーでありながら本革やPVCに比べて軽量です。またファブリックよりも寿命が長い、という特徴を持ち、走行時や運航時の二酸化炭素排出量削減を推進する自動車メーカーや航空機メーカーのサステナビリティへの取り組みを、さまざまな面で支援しています。加えて、私たちの製品を常により安全かつ健康的な環境で利用できることを目指して、病院をはじめとする医療機関における使用の安全性を担保するGREENGUARDなど第三者の認証取得にも取り組んでいます。

グリーンプロダクト

私たちは製品の開発・製造を通じて、お客様のサステナビリティに関する取り組みを支援し、持続可能な社会の実現に貢献します。

▶お客様の気候変動への対応に貢献

当社の合成皮革は本革やPVCと比べて約1/2～2/3の重さです。航空会社や電気自動車の開発を進める自動車メーカーの1gでも軽い素材へのニーズに応えることで、お客様の二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス削減が可能となります。



▶お客様の廃棄物削減の取り組みに貢献

高い耐久性と防汚性を備えた製品開発により、汚れるとクリーニングや交換が必要となる布製シートを、清掃が簡単で長期間使用できる合成皮革製シートに置き換えることが可能となります。

▶お客様の生物多様性保全の活動に貢献

当社の合成皮革は本革と同等の高級感を持つアニマルフリーのレザーとして、動物由来の素材使用を避けたいと考える欧米を中心としたニーズに応えており、お客様の生物多様性の維持に向けた取り組みに貢献します。

製品の安全

当社の製品をより安全に利用していただくために、多くの製品はGREENGUARDもしくはGREENGUARD GOLDの認証を受けています。GREENGUARD認証は、室内空気汚染や化学物質への曝露（ばくろ）を抑え、健康的な室内空気環境を担保することを目的としています。その認証は世界で最も厳しい化学物質放散の規格に基づいており、登録製品は第三者認証機関によりその基準に適合していることが証明されます。更に、当社の製品群の中でも米国の医療団体が推進するHealthier Hospitals programが推奨するSafer Chemicals Challenge（Version 2.0）に適合する製品は、病院をはじめとする医療機関で幅広く利用されています。

GREENGUARD認証のロゴと
Healthier Hospitalsのロゴ

未来志向の研究開発

私たちはよりグリーンでより安全な製品をお客様に届けることを目指した研究開発に取り組んでいます。現在研究開発のテーマとして、製品の中に占めるバイオ（植物由来）比率を高める研究や無溶剤製品の開発を取り上げており、将来これらの製品がラインアップに加わる予定です。

安心・安全な製品の研究

環境への負荷をしっかりと認識し、環境保全に向けた体制づくりを進めます

私たちは、高い品質と供給の安定性の確保に向け、2018年夏の生産2ライン化を目指して設備投資を進めています。一方で、気候変動、資源の枯渇、そして自然環境の劣化がもたらす社会や環境への影響がより明らかになるにつれ、地域社会や世界中の環境意識の高いお客様から、日々の事業活動の中でこうした課題に取り組むことへの期待が高まっています。私たちは、こうした期待に応えていくために生産能力の拡大と併せて、製品のライフサイクルを通じて生じる環境への負荷を徹底管理し、事業と環境保全の両立に向けた積極的な取り組みを推進していきます。

環境マネジメント

当社では企業活動が環境に及ぼす負荷を適切に管理し、成長と環境保全を両立する経営をグループ全体で推進していくために、ISO14001認証の取得に向けた準備を開始しました。ISO14001は2015年の改訂により、従来の手順の遵守や法的要求事項への対応だけではなく、持続可能性がより重視され、事業と環境をリンクさせたマネジメントが求められることになりました。当社は、海外拠点を含むグループ全体の仕組みを変え、事業における環境・CSR活動を推進する機会としてISO14001を活用することで、製品ライフサイクルを通じた環境課題の解決に取り組んでいく方針です。

2018年夏に完成を予定している製造工程2ライン化の工事完了後には、サステナビリティへの取り組み指標として環境中期目標を設定し、目標達成に向けた活動計画の策定、進捗の管理をしていく予定です。具体的には、エネルギーの効率的使用による原単位あたりの二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減及び再利用の推進、水資源の保護を3つの重点分野として設定し、取り組んでいく予定です。

環境マネジメント工程表

製造ライン工程の2ライン化
2018年夏

↓

サステナビリティへの取り組み推進と
中期目標の策定

↓

目標達成に向けた活動計画の策定
PDCAサイクルを始動

↓

ISO14001
認証取得予定

VOICE

品質管理体制の強化と環境マネジメント体制の整備に向けて、新たな組織づくりに取り組みます。

尾城 紳治

第一化成株式会社 取締役品質保証部長

1984年第一化成入社、検査課長、埼玉事業所次長などを経て2017年6月より現職。

Ultrafabricsとの事業統合に合わせ、第一化成では工場と研究所を含む組織体制の大幅な変更を行いました。グループ内における各部署の役割や責任を明確化するとともに、ISO9001の海外拡張やIATF16949の取得準備など品質管理体制の強化とISO14001の取得を含む環境マネジメント体制の整備を目標に、新しい組織づくりに取り組んでいます。その中で品質保証部は、品質管理関連規定や環境関連規定の整備、社内教育の充実など、新しい取り組みを推進していく役割を担っています。特にISO14001は、ゼロから取得準備を始める大変な作業となりますが、当社グループが今後、事業成長と環境保全を両立していくための要となるマネジメントシステムになることから、早期の取得を目指し、部署一丸となって取り組んでおります。

環境負荷低減に向け、重点課題へ積極的な取り組みを加速していきます

気候変動への対応

気候変動に関するパリ協定が発効したことで、世界的にも脱二酸化炭素の動きが進み、企業活動においても環境負荷の低減と事業の成長を両立させることが持続的成長の基本要件と考えられるようになっています。私たちの製品は、本革やPVCと比較して軽いという特性により、航空会社や自動車メーカーなどお客様の二酸化炭素削減の取り組みに貢献してきました。当社では、製品のライフサイクルの中で排出する二酸化炭素量の削減を目指し、製造及び物流を通じた事業全体での排出量削減に取り組みます。2016年3月の群馬工場稼働以降、生産能力向上と最新の設備機械導入により、生産効率向上を通じた使用エネルギー削減を推進してきました。2018年夏には、製造工程2ライン化のための設備投資が完了することから、工場及び輸送で使用されるエネルギー及び二酸化炭素排出量の管理・測定を進め、原単位あたりの排出量削減目標を設定し実現を目指します。

水資源の保護

私たちの製品は、独特な柔らかな風合いとしなやかな触感を出すために、製造工程において水を使用しています。2018年の夏には、製造工程2ライン化のための工事が完了することから、工場の水使用量は増加していく見込みです。こうした状況下で地域の水資源を保護するため、2019年に排水処理場を稼働する予定です。使用する水の多くを工場内で再利用することで、製造過程において使用する水の取水量・排水量削減を管理し、地域の水資源の保護に努めていきます。

ENVIRONMENTAL PRESERVATION

廃棄物の削減と再利用

当社では、資源循環型の社会構築に貢献すべく、事業活動全体にわたり使用する資源をできるだけ少なくすることを目指しています。当社の工場では、製造工程で発生した異常による不良品、微細なキズや汚れ、色むらにより不適合品としてお客様に出荷ができない製品、最終製品を出荷する際に長さや幅を整えるために切り落とした端切れなどが廃棄物として発生します。このような廃棄物を極力削減するために、各工場では、原材料の徹底管理、各製造工程における異常発生管理を通じた不適合品・不良品発生率の改善、製品出荷時におけるカット数量の削減などに取り組んでいます。また、各工場から排出される産業廃棄物については、産業廃棄物処理委託業者の管理、マニフェスト交付・回収状況の管理を通じて徹底管理しています。また、廃棄物の有効利用に向けた取り組みとして、不適合品を活用したシャツの製作や、CSR活動の一環として福祉事業者とタイアップしたノベルティグッズの製作などを行っています。

製造工程で使用する溶剤の再利用

廃棄物削減及び再利用推進の一環として、合成皮革の製造過程で使用される溶剤の回収及び再利用にも取り組んでいます。ベースとなる織物などにポリウレタン樹脂を塗布する際に溶剤を活用していることから、塗布工程で使用された廃水には溶剤が含まれています。ここから溶剤を取り除き、再利用する設備を設置し、溶剤の回収と再利用を行っています。現在、生産能力増強及び設備の更新に加え、新しい回収・再利用のための設備を建設中で、2018年の5月には運転開始を予定しています。新しい設備導入により溶剤のより効率的な回収を目指すとともに、更なる環境への負荷低減を目指しています。

PEOPLE

従業員への取り組み

働きやすい職場づくりと
多様性を活かした人材育成を目指します

世界中のお客様の期待に応える製品を提供し、企業として成長し続けていくためには、従業員一人一人が高い倫理観を持ち、自己の能力を高めていくことが求められます。当社グループでは、多様性を競争優位の源泉として活かすための人材育成や、従業員が安心して力を発揮できるための労働環境整備に取り組み、従業員が常に高い士気を保てる職場環境づくりに努めています。第一化成及びUltrafabricsがそれぞれ育んできた企業文化を土台としつつ、両社の優れた文化をお互いに共有・理解し取り入れていくことで、グループ各社の従業員が自己の成長と夢の実現を果たすことのできる職場づくりを目指しています。

グローバル人材育成とダイバーシティ推進の取り組み

Ultrafabricsは長年にわたりお客様に寄り添い、ニーズや需要動向を第一化成に伝えることによって製品開発や研究開発の指針作りを支援してきました。一方で、第一化成は職人の経験と技能に裏打ちされた「匠の技」でUltrafabricsが汲み取ったニーズに応える製品を世に送り出してきました。今般の持株会社化により、両社が同一グループの下で経営されることで、両社の従業員がこれまで以上に互いの会社の持つ機能と役割への理解を深め、相互理解を促進していくことを通じて、グローバルなプラットフォームの下で多様な人材が活躍できる組織づくりを推進しています。具体的には、Ultrafabricsで日本語教室、第一化成では英語教室を実施するとともに、駐在員派遣や人材交流プログラムの実施による両社の経営層・従業員の交流を通じた相互理解促進に積極的に取り組んでいます。

第一化成で行われている英語教室

労働安全衛生推進の取り組み

当社製品の生産を担う第一化成では、製造のための各種機械の操作や有機溶剤の使用に伴う、物理的・化学的な危険性を内包する人的作業があります。そのため、製品の安全性確保や環境保全と同時に、従業員の安全・衛星にも細心の注意を払い、リスクアセスメントを通じて災害と健康障害が生じない快適な職場環境の実現に努めております。具体的には、現場作業員に対する活性炭入りマスクや手袋の着用の義務付け、AED（自動体外式除細動器）の埼玉事業所・群馬工場への常設と随時の「上級救命講習会」への参加、有機溶剤従事者の特殊健康診断や回収プラント従事者の深夜業従事者健康診断（いずれも年2回）の実施などにより、災害や健康被害への万全の対策を講じています。

　また、事業拡大に伴う生産量の増加に対し、生産機器の増強とともに適時・適切な人員採用を推進し、過剰な労働負荷を軽減する取り組みも継続しています。

Ultrafabricsで行われている日本語教室

快適な職場環境推進に向けた会議

企業市民として、
地域社会での責任を果たしていきます

私たちは、グループが拠点を持つそれぞれの地域社会でのつながりを大切にし、地域社会の一員として社外の皆様と協働しながら地域社会の持続可能な発展に貢献する取り組みを推進しています。地域社会の課題解決に取り組む団体への寄付に加え、自社で製造した製品を活用した障がい者の自立支援、大学への制作用素材提供を通じた次世代の専門家育成支援や、地域大学・学校からのインターンシップ受け入れを通じた就業支援など、自らの事業プラットフォームの特性を活かしながら地域社会への貢献に取り組んでいます。

Parquetグループの施設で作られたトートバッグ

障がい者の経済的自立支援

当社は、あらゆる人々の生活に携わる製品を製造する企業として、また、社会の幸福に貢献するという当社の創業理念に立脚した企業活動の一環として、社外の皆様と協働しながら障がい者の自立と社会参加を応援しています。2017年より、障害や疾患のある方がより豊かに暮らしていく基盤づくりをサポートするリカバリーカレッジや、療育が必要と認められるお子様のいる家族を支援する放課後デイサービスを運営する社団法人などを傘下に持つParquet(パルケ)グループと協働した取り組みをはじめました。微細なキズや汚れ、色むらにより、お客様に出荷ができない当社製品を活用してParquetグループの施設で作られたトートバッグを、当社でノベルティグッズとして購入し、株主総会出席者やお客様にお渡ししています。更にお客様や地域の方々とのコミュニケーションの機会に活用することで、社員の意識啓発にもつながっています。今後は、Parquetグループと協働して、本取り組みが、参加する方々の自立支援につながることを目指していきます。

Parquetグループでのトートバッグ製作

地域社会における人材育成の支援

当社グループは、地域社会における就業支援や専門能力の育成活動に積極的に取り組むことで若年層の教育に貢献しています。Ultrafabricsでは地元の学生を中心にインターンシップを積極的に受け入れており、2017年には13名を受け入れ就業経験を得る機会を提供しました。第一化成では、多摩美術大学のCMTEL(シムテル、Color Materials Trends Exploration Laboratory)向けに製品サンプルの提供を始めました。CMTELはアートやデザインを学ぶ学生のみならず社会へも開かれた、制作物の材料やアイデアの糸口を見つけるための素材研究室で、国内外の多くの企業から提供された「特殊素材」の展示や「色彩」「トレンド」に関する資料を収集する、クリエイターの創造の未来を切り拓いていく重要なアーカイヴです。当社は、学生の制作活動への素材提供を通じて、デザイン分野における専門的人材教育の取り組みを支援しています。

多摩美術大学の学生制作活動へ素材提供

主要な支援先のロゴ

地域貢献活動

Ultrafabricsでは地域社会のニーズや課題解決に取り組むために、慈善寄付委員会を設置し、健康で豊かな生活、教育、芸術や環境の課題などに取り組む団体への寄付を積極的に行っています。

役員紹介（2018年1月1日現在）

❶代表取締役社長
中野 淳文
第一化成株式会社取締役
Ultrafabrics Inc.取締役

❷取締役
クレイ・ローゼンバーグ
Ultrafabrics Inc.
取締役CEO

❸取締役
ダニエル・ベッカープリマック
Ultrafabrics Inc.
取締役President

❹取締役
中川 豊彦
第一化成株式会社
代表取締役社長

❺取締役
田中 勉
第一化成株式会社
代表取締役副社長兼製造本部長

❻取締役兼経営管理部長
吉村 昇
第一化成株式会社取締役兼業務部長
Ultrafabrics Inc.取締役

❼取締役（監査等委員）
藤村 俊夫
第一化成株式会社
監査役

❽取締役（監査等委員）
伊丹 庸之

❾取締役（監査等委員）
横尾 彰

基本的な考え方

当社では関連する法令・規則を遵守することはもちろんのこと、コーポレート・ガバナンスの観点から株主や最終消費者を含む取引先をはじめ、従業員や地域社会を含めたステークホルダー（利害関係者）に対する責任を果たし、企業価値の向上、株主への利益還元の充実に取り組んでいく方針であります。グループ全ての役職員に対して、コンプライアンスの重要性の周知徹底と、良識に基づいた判断・行動を促すように努めるとともに、経営の公正性と透明性を高め、意思決定及び執行を的確で迅速なものとするために、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置付けています。

企業統治の体制の概要

当社は2017年10月1日より持株会社化するとともに監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。取締役（監査等委員である取締役を除く）及び監査等委員である取締役で構成される取締役会を、原則として毎月、また必要に応じて開催しており、重要事項を協議決定するほか、さまざまな報告が適宜なされています。

また、社外取締役の要件を満たす監査等委員である取締役3名が構成員となる監査等委員会を、原則として毎月、また必要に応じ開催し、監査・監督等を担う機関として必要事項の審議・報告等を行っています。

内部監査部は、社長直轄とし、監査等委員と連携して内部監査を実施し、定期的に報告を行っています。

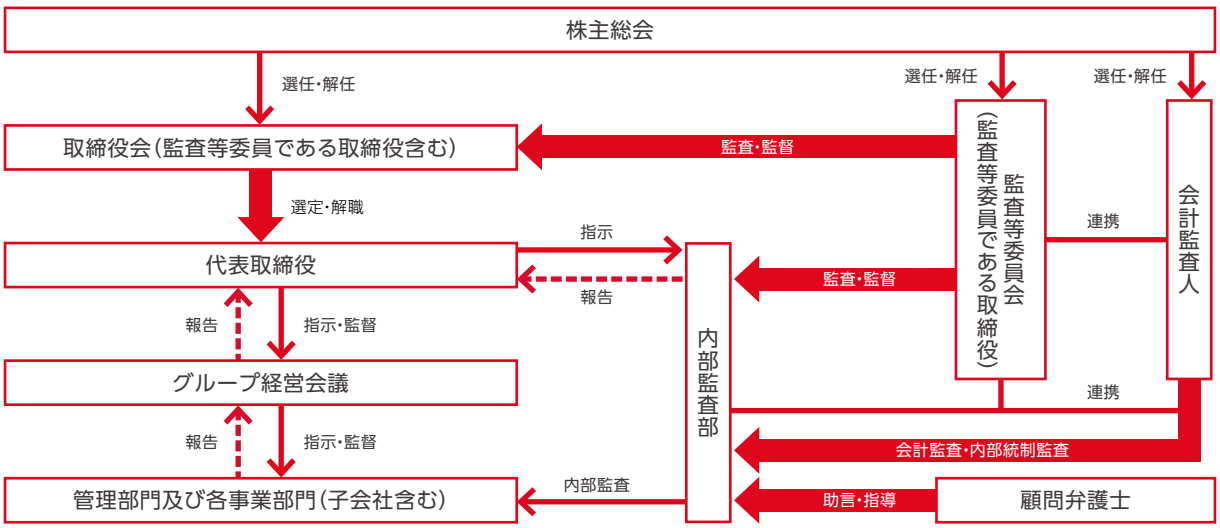
監査等委員会設置会社

当社は、監査等委員会設置会社として、取締役（監査等委員である取締役を除く）のほか、社外取締役の資格要件を満たす監査等委員である取締役3名を監査等委員に選任し、取締役会及び監査等委員会を定期的に開催しています。

取締役会への監督機能を一層強化し、取締役会及び監査等委員会がそれぞれの機能を十分に発揮することによりコーポレート・ガバナンスを更に充実させ、透明性及び機動性の高い経営の実現を図ることが、株主様をはじめとする各種ステークホルダーの期待に沿うものであると考えています。

なお、会社の機関・内部統制の関係は以下の通りです。

コーポレート・ガバナンス体制図



ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社
〒192-0046 東京都八王子市明神町3-20-6 八王子ファーストスクエア6F
経営管理部
TEL:042-644-6515
FAX:042-644-6621
URL:https://www.ultrafabricshd.co.jp